

令和3年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 八幡 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

教科に関する調査(国語, 算数)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語、算数)の結果

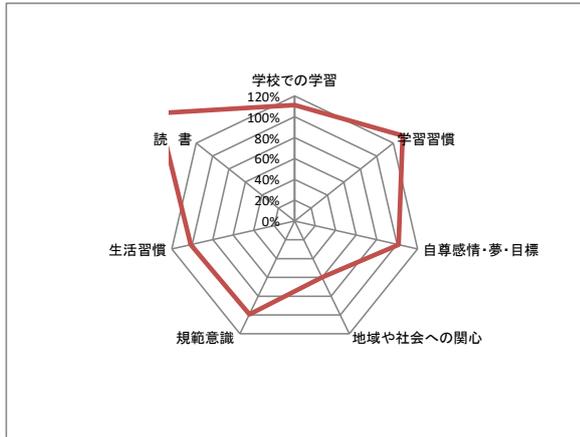
本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.8	63	11.0	69
全国	9.1	65	11.2	70

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全体的によくできており、基礎的な力が身に付いています。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	「話すこと」「聞くこと」及び「書くこと」の領域がよくできています。特に「書くこと」の領域において、自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える問題の正答率が、全国平均を大きく上回っています。	上回っている
	努力が必要な問題	目的や意図に応じて資料を使って話したり、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見つけたりする問題に課題が見られました。	

算数	全体的な傾向や特徴など	全体的によくできており、基礎的な力が身に付いている。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	「図形」の領域がよくできています。特に三角形と四角形を組み合わせた図形の面積を求める問題の正答率は、全国平均を大きく上回っています。	上回っている
	努力が必要な問題	「速さ」など数量関係について課題が見られます。特に一定の速さの時の道のりと時間の関係について考える問題の正答率が全国平均を下回っています。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> 学習習慣や生活習慣は、高い水準にあります。また、規範意識や自尊感情が高く、将来の夢や目標に向かって努力しようとする姿が見られます。 家庭での学習時間が1時間以上と回答した児童がとて多かったです。 読書習慣が定着し、長い時間本に親む児童が多いようです。しかし、新聞を読んでいる児童はごく少数でした。活字を通して社会の出来事に目を向けられるような指導をしていきます。 テレビゲームを平日1時間以上していると回答した児童が9割以上いて、外遊びの時間が減っています。 ⇒ 外遊びができず家庭で過ごす時間が増えたため、家庭学習や読書、テレビゲームの時間が増えていると考えられます。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・国語科では、いくつかの資料から目的に合ったものを選び、必要な情報を整理していくことに課題が見られます。他の学習も含め、目的に応じて必要な情報を整理し、まとめられるよう指導していきます。

・算数科において、以前は図形領域に課題が見られていたが、授業改善を進めていく中で正答率が上がってきている。しかし「速さ」など数量関係について課題が見られます。補充学習時間(学1タイム)等で個別に課題に取り組めるよう、学習プリントやICT等の活用の工夫をしていきます。

② 家庭生活習慣等に関する取組

コロナ禍において地域の行事が中止を余儀なくされ、校外学習も思うようにできない中、地域や社会への関心が薄れていっています。本校でもこれまで非常に高い数値でしたが、落ち込んでいます。今後、社会状況を注視しながら、地域や社会に関心をもてるよう、教育活動の見直しを行っていきます。また、家庭でテレビゲームを行っている時間が増えている。適切な距離を保ちながら、元気に外で遊ぶことができるよう指導をしていきます。

中央中学校との連携を図りながら家庭学習チャレンジ週間を設定したり、モデルとなるノートを掲示したりすることで、家庭学習の習慣が定着してきています。引き続き、ご家庭でも声かけをお願いします。